

城陽スマートインターチェンジ（仮称）地区協議会

設立趣意書

城陽市は、京都と奈良の間に位置していることから、古くから交通の要衝として位置づけられてきました。このことから、「五里五里のさと」と親しまれるとともに、南北交通の利便性や豊かな緑に代表されるまちとして、山城地域において中核を担う都市として発展してきました。しかし、近年は、全国的な少子高齢化・人口減少の流れの中、城陽市においても、若年層の市外流出や少子化による急速な高齢化・人口減少が進行しております。

そうした中、平成24年4月に城陽市を東西に横断する新名神高速道路が、平成35年度の全線供用を目標に事業着手されたことから、城陽市としても交通の要衝として地の利を活かしたまちづくりに向けて動き出しており、本スマートインターチェンジを核としたまちづくりとして、東部丘陵地長池地区では大規模商業施設、青谷地区では物流拠点の立地誘導を進めており、今後も東部丘陵地全体420haのさらなる開発も見込まれます。

本スマートインターチェンジの設置は、高速道路のアクセス性、利便性等の向上により、企業立地の促進や救急搬送時の定時性の確保のほか、観光振興、防災機能の強化にも寄与するものであり、ひいては、城陽市のみならず京都府南部地域の活性化も大いに期待されます。

このため、国土交通省、京都府、京都府警察、西日本高速道路株式会社、地元関係団体及び城陽市が連携し、スマートインターチェンジの設置に向けた必要な検討・調整を行い、供用後においても継続して、社会便益、安全性、利用交通量、管理・運営形態等を定期的にフォローアップし、必要に応じ見直す場として、「城陽スマートインターチェンジ（仮称）地区協議会」を設立するものです。

平成29年7月3日

城陽市長 奥田 敏晴